

水木しげるロード道路空間の再配分による賑わい空間の創出に向けた社会実験 (鳥取県境港市)

1. 実験実施の背景

- ・年間200万人超の来訪者、全国的観光地として定着
- ・部分的に狭い歩道、歩車道間の段差等によりベビーカー・車いすの通行が困難
- ・平成22年以降、入込客数が減少傾向
- ・賑わい継続のため大規模リニューアルを実施

2. 検証項目

●「訪れるすべての人にやさしい道」の整備

- ①リニューアルの基本概念に対する意見調査
- ②仕掛けの効果、仕掛けに対する評価の確認(一方通行化、蛇行、狭さく、ハンプ、休憩スペース、ベンチ・テーブル)

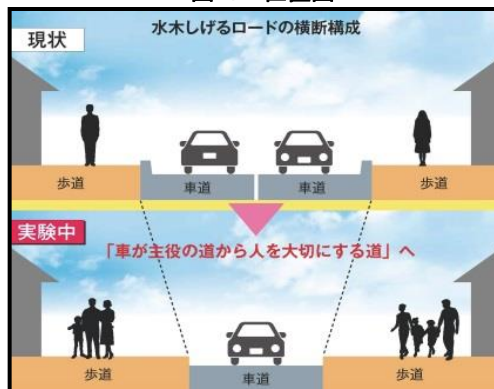
3. 今回の実験内容及び結果

【実験区間】 水木しげるロード(境港停車場岬町線 の市道部分 800m)

【実験内容】

- ①道路空間の再配分調査(L=600m)
 - ・車道を2車線から1車線に変更し歩道を拡幅
 - ・歩行者の滞留スペースを確保し賑わい空間を創出
 - ・自転車通行帯を設け、歩車分離を図る
- ②一方通行等調査(L=600m)
 - ・区間内は一方通行とし迂回路を設定
 - ・車道にはスラローム、ハンプを設け速度低減を図る
 - ・沿道商業施設に必要な荷捌きスペースも確保する
- ③調査項目
 - ・交通量調査
 - ・訪問者・地元住民アンケート

【実施期間】 平成27年11月21日(土)～平成27年11月29日(日)



4. 検証結果

- ・社会実験による仕掛けで、時速20km台の車両が増加、平均速度にして「時速約4km減速」、**法定速度超過が激減**。
- ・日常生活への影響は、全体としては、許容範囲だが、**自家用車の利便性低下**が発生。
- ・自転車通行帯は、**スラロームの影響により走行しにくい箇所**があった。
- ・市民バスの利便性は、特に支障の声はなかった(一部、停留所が近くなって良いとの声あり)

【総合評価】

- ・**重要と感じ、満足度も高い**、ニーズ度が高いのは「休憩スペース」「ベンチ・テーブル」「一方通行化」
- ・休憩スペース等に比べると「蛇行」「狭さく」「ハンブ」のニーズは低いものの、重要度・満足度それぞれ50点以上

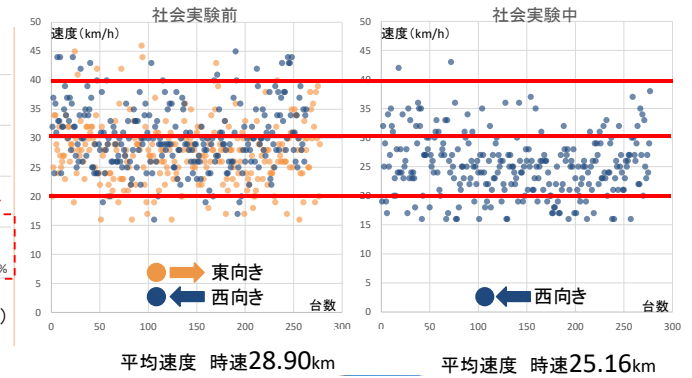
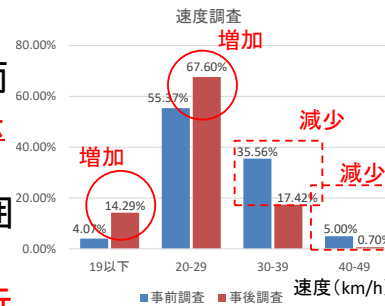
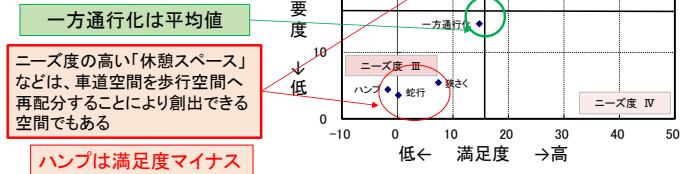


図-3 実験前・実験中の車両速度

	【満足度】	【重要度】
一方通行化	14.757	14.312
蛇行	0.171	3.545
狭さく	7.394	5.451
ハンブ	-1.742	4.389
休憩スペース	37.326	38.889
ベンチやテーブル	35.172	35.219

※満足度・重要度は、「良い」などの各回答数(以下)の点数をかけた合計値を全回答数で割った平均点
「良い」100点 ※詳細は次頁参照
「やや良い」50点
「どちらでもない」0点
「あまり良いと思わない」-50点
「良いと思わない」-100点



ハンブは満足度マイナス

図-4 実験の総合評価 (アンケート結果)

5. 実験後の展開、明らかになった課題等

- ・車と、人・自転車との接触事故対策として、**路面表示・標識設置**等の検討が必要
- ・自転車走行の安全対策として、**路面表示・標識設置、安全走行の啓発**等の検討が必要
- ・周辺道路への迂回車両対策として、**道路の改良、時間規制**等の検討が必要
- ・車の誘導対策として、**誘導看板設置、カーナビへの適切な情報の反映**等の検討が必要
- ・住民や商店の車両に著しい不便が生じないような対策として、**時間進入規制**等の検討が必要
- ・荷さばきスペースの確保及び住宅地での路上駐車対策として、**一定のルールづくり(搬入車両の時間規制等)**に関する検討が必要